

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和6年度期末）

1 支援の内容及び効果等

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・日本語学校との交流が活発化、安定化してきていることは、評価できる。今後は「担い手」にシフトできるように地域の受け入れる意識をどのように醸成できるかが重要である。 - また、イベント時に「まち協説明ブース」を設け啓発を行ったことはこれまでより踏み込んだ活動であり、まち協を広く知ってもらうことのできる活動として評価できる。 ・今年度は、いくつかの地域の事業で新たな担い手へのアプローチがなされ、一定の効果を出しているが、継続的な担い手になるまでには至っておらず、今後も引き続きアプローチしていく支援が重要である。 ・広報については、新たな広報を試みる地域も出てきていることは評価できる。ただ多くの地域では新しいツールを使いこなしていくことが困難な状況であり、広報分野に限るなど若い世代に担ってもらえるような方法を検討する必要がある。 今まで事業の振り返りがなかなかできなかった地域で新しい要望に基づいた事業を新年度に実施できるようになったことは、非常に重要なことであり、他の地域でも同じような動きができるような支援策を検討していく必要がある。

2 支援の内容及び効果等

評価項目

- (1) 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取り組み）

評価	左記の理由
B	今年度は、まちセンの支援策をまとめた「まちセンメニュー」の配布やまち協の理解促進のため区役所と共同で説明会を開催し、同時に地域の実情を把握するために意見交換も実施したことは評価できる。ただ、全体的にきっかけとなる支援の後のフォローが十分ではなく、地域の声をきいて得たものを踏まえてのアウトプットが十分ではなかった。 また、地域も変革を求めている部分もあるように感じているので、地域のニーズや進む方向について、共通認識が持てるように、意見交換を積極的にしていくことが重要である。

3 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

(1) アンケート調査

評価	左記の理由
B	利用者アンケート調査では、まちづくりセンターの支援に満足している割合は目標数値（86.6％）には達していないが、自分の地域に即した支援を受けることが出来ていると感じた割合は目標数値（88.8％）を達成した。今後は地域の実情に即した支援を更に充実させ、満足度を高める支援を行う必要がある。 また、区民アンケート結果によると地域活動協議会を知っている区民の割合は59.1％となり前年度より大きく増加しており評価できる。

4 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	今年度は、まちセンの支援をまちづくり協議会に感じてもらうことをテーマに様々な取り組みを実施してきた。 その結果、地域のニーズに即した支援において目標値を達成できたことは評価できる。しかしながら、その支援が地域に満足してもらえらるレベルかどうかという評価においては、地域へのフォロー面での不十分さや支援の方向が限定的であったように思われ、満足のいく結果は得られなかった。 まちづくり協議会の支援では、まちセンが持っている多様なアイデアの提案や地域支援につながる情報を地域に発信し、それを実践してもらえるところまで支援ができるかが重要であり、いかに地域に取り入れてもらえるかを検討していく必要がある。

（評価基準）

- S：支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：支援内容や目標の水準を下回っている。